

<金標準、日銀の YCC の修正が始まり 8700 円割れへ・・・>



(出所：オアシス)

FOMC では FF レート誘導目標 0.25%引き上げを実施し、ECB 理事会でも政策金利を 0.25%引き上げ実施し、FOMC と ECB 理事会は想定内の結果となった。しかし植田日銀総裁がインドの G20 で「その前提が変わらない限り全体のストーリーは不変だ」と YCC の修正を否定していたが、夜中に日経電子版が YCC の修正を議論していると報じるなど、投机筋の意表を突くリークで 12 月と違い円相場は YCC の修正にも関わらず 141 円から 138 円の 3 円程度の円高で納められている。特に金標準先物は一時 8692 円まで下値を試すなど、円高のリスクを受けている。また PCE デフレーター、ミシガン大消費者信頼感指数の発表を受け、ゴールドロックスの期待が高まりを示すなどリセッション・リスクが後退している。そのため FRB と ECB は金利抑制に動き、日銀は YCC の修正を続ける事から円建て金価格には円高リスクが加わるため、今後は高値追いが難しくなると思われる。

<テクニカル>

金標準先物の日足の MACD や RCI では、MACD は **MACD** と **シグナル** が横ばいしながら推移している。また RCI では、**短期** が下げながら、**長期** は下げ渋る動きを見せているが、**短期** が **長期** を下回る弱気のクロスが発生する可能性は高い。また **10 日移動平均線** と **40 日移動平均線** の乖離が縮小しており、乱高下には注意が必要と思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,680,000 円(2023 年 7 月 31 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 87,120 円(2023 年 7 月 31 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>